

【別紙様式2】

千葉県県土整備部所管公共事業事前評価自己評価調書

事業名	一般国道356号（香取小見川バイパス）
担当課名	道路計画課

1. 事業の概要

(1) 事業の目的	一般国道356号は銚子市から我孫子市を連絡し、千葉県北部地域の経済活動や観光産業等を支える幹線道路である。圏央道をはじめとした高速道路インターチェンジとのアクセス性の強化を図るために、4車線化やバイパスの整備を推進することとしている。		
(2) 事業の内容			
①事業期間・時期	事業期間：10年間		
②事業規模	延長：10.1km 幅員：9.0m（2車線）、19.75m（4車線）		
③事業費	全体事業費：170億円		
④事業位置	香取市津宮～小見川		
(3) 指標			
①事業目的	②指標	③現状値	④目標値
住環境・安全性の向上	国道356現道からバイパスへの交通量転換	122百台	84百台
地域間交流・連携の強化	所要時間の短縮 銚子市街地～佐原香取IC	61分	46分
地域防災機能の強化	盛土構造等による災害に強い道路の確保	国道356号現道	国道356号現道の代替経路の確保
救急医療活動の支援	既成市街地から救急基幹病院への搬送時間短縮	小見川市街地～ 県立佐原病院 22分	小見川市街地～ 県立佐原病院 13分

2. 県が実施する必要性

(1) 現状及び課題	<p>【現状】</p> <p>香取・東総地域は、農業が盛んな銚子市や香取市をはじめ、水揚げ量日本一の銚子漁港を有し、多くの農水産物に恵まれるなど、高いポテンシャルを有しており、新鮮な農産物の安定供給のため、広域的な幹線道路ネットワークの整備が必要である。</p> <p>一般国道356号の死傷事故率については、香取駅前交差点付近等、179.5件/億台キロと千葉県平均（43.1件/億台キロ）を上回る区間が点在する。</p> <p>また、小見川市街地においては、救急基幹センターである県立佐原病院まで30分以上要するエリアの割合が大きい。</p> <p>一般国道356号は、千葉県緊急輸送道路1次路線に指定されている。</p>
------------	---

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域道路ネットワークの未整備 ・一般国道356号現道の交通事故による安全性の低下 ・救急医療施設へのアクセス性の向上 ・災害発生時のリダンダンシー向上
(2) 上位政策及び全体計画との関連	<p>国道356号は、千葉県広域道路交通ビジョン・計画（令和3年6月策定）において、全国や県内各地との交流や連携の強化、平常時・災害時を問わない安定的な人・モノの流れを確保するため、一般広域道路に位置付けている。</p> <p>千葉県道路整備プログラム(令和2年3月策定)において、地域高規格道路や高速道路ICのアクセス強化に資する道路として国道356号が位置付けられている。</p>
(3) 優先度及び適時性	<p>【優先度】</p> <p>一般国道356号は圏央道などの整備効果を県内に波及させ、更なる利便性の向上や県内外との交流の活性化を図る道路であり、広域的な道路ネットワークを形成していく上で整備を行う優先度は高い。</p> <p>【適時性】</p> <p>一般国道356号は、これまで香取市小見川から東庄町笹川までの4.7kmが平成21年に供用しており、現在事業中である東庄町笹川から東庄町新宿まで4.0kmの区間は令和5年度に供用予定である。また、令和6年度には圏央道の大栄・横芝間の供用が予定されている。</p> <p>圏央道の整備効果を香取・東総地域へ波及させ、当該地域の発展を促進するため、早期に整備を進める必要がある。</p>
(4) 代替案との比較	<p>利根川堤防沿い案（現計画案）、現道拡幅案、耕地通過案による3案比較した結果、集落への影響を極力避け、整備された圃場と整合を図り、農地の斜め横断を極力回避したルートである現計画が最も優位である。</p>

3. 経済的・社会的効果

<p>○ 国土交通省のマニュアルに基づく一般国道356号の費用便益分析の結果、便益の現在価値化後（基準年令和4年度）の金額は、走行時間短縮便益で140億円、走行経費減少便益は22億円、交通事故減少便益は1億円であり、費用便益比(B/C)は1.2と便益が費用を上まわっている。</p> <p>○ 一般国道356号の全線整備により、以下の効果が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域道路ネットワークの形成 ・住環境・安全性の向上 ・地域間交流・連携の強化 ・災害などに強い道路整備により緊急輸送道路ネットワーク・リダンダンシーの強化 ・救急医療施設へのアクセス性向上による救急医療活動の支援
--

4. 環境に与える影響

本事業の実施にあたり環境影響予測を実施した結果、供用時にはいずれも基準値内の予測値であったが、事業の実施にあたっては、低騒音及び低振動の工法、建設機械の採用などを行っていく。

項目	予測結果	基準
二酸化窒素	基準の範囲内	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下
騒音	基準の範囲内	騒音に係る環境基準（B地域、2車線以下、昼間65dB、夜間60dB）以下
振動	基準の範囲内	道路交通振動に係る限度（第1種区域：昼間65dB、夜間60dB）以下
植物	影響なし	環境要素を相当程度保全する
動物	影響なし	環境要素を相当程度保全する
景観	影響なし	環境要素を相当程度保全する

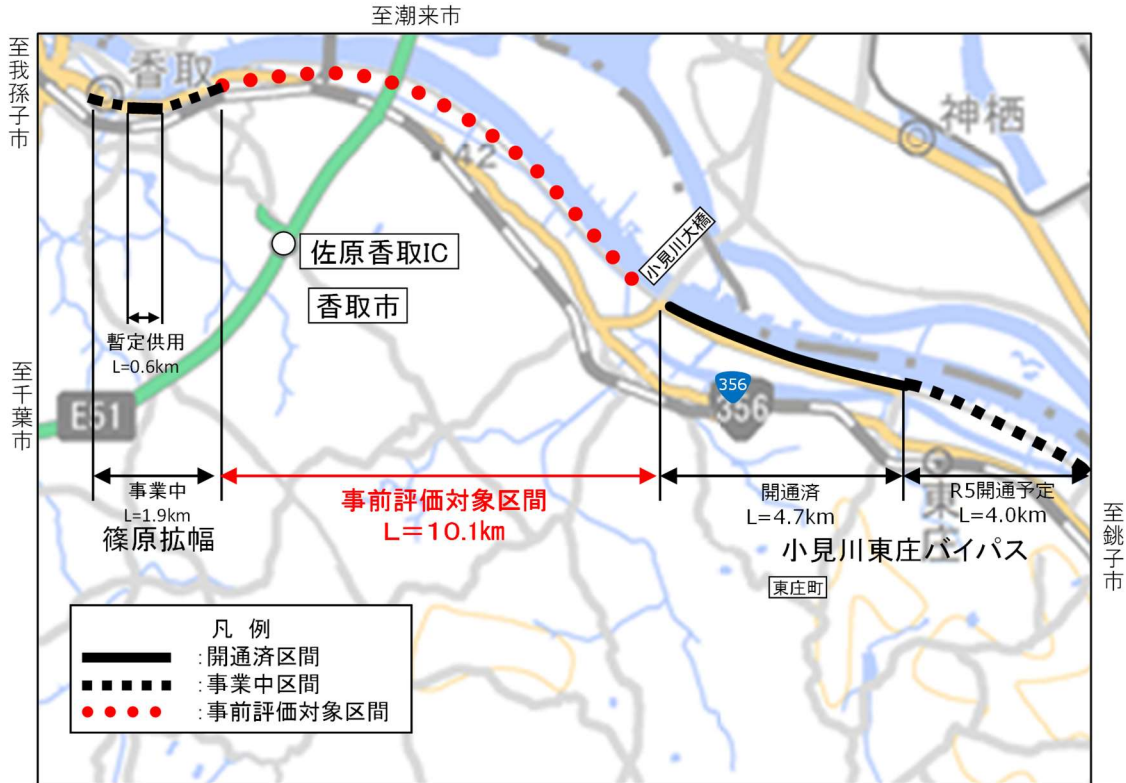
5. 総合的な評価

本事業は、費用便益分析の結果B/Cが1.2であり投資効果が見込めるとともに住環境・安全性の向上、地域間交流・連携の強化、地域防災機能の強化、救急医療活動の支援が見込まれるため、令和5年度から事業に着手し、早期整備を図る。

事業概要図

事業名	一般国道356号 香取小見川バイパス	路線又は箇所名等	一般国道356号
-----	-----------------------	----------	----------

【計画平面図】



【位置図】



【計画横断面図】

